

## 第7回ふくまる夢たまごセミナー

日時 10月19日（金曜日）18時～20時

場所 市庁舎7階大会議室

内容 ・講話1：前期現場実習をふりかえって

講師：前川亮太（教育政策課 指導主事）

・講話2：ふくまる塾生に伝えたいこと

—どんな教師になりたい？—

講師：小林弘典（教育政策課 課長）

今年度は、「ふくまる教志塾」に登録している塾生38名のうち31名が、年間15回～30回、市内9小学校4中学校、そして1義務教育学校で現場実習をしています。また、ふくまる教志塾に聴講生として参加している塾生も、教育実習や学生ボランティアを経験しており、理想と現実の狭間で、学校現場でさまざまな葛藤や矛盾に直面していることと思います。

今回のセミナーでは、ふくまる教志塾の前期を振り返って、前川指導主事から「前期現場実習をふりかえって」、小林課長から「ふくまる塾生に伝えたいこと —どんな教師になりたい？—」と題した二つの講話がありました。

### 【講話1】

前川指導主事からは、初めに現場実習での塾生のみなさんの様子（授業の参観、子どもへの支援、作業、部活動等の指導補助、行事への参加等）についてパワーポイントを使って紹介しながら、学校現場で学んでほしいことや気をつけてほしいことについてお話をいただきました。授業参観であっても目的意識を持って臨んでほしい、受身の姿勢からは何も学ぶことはできないという話の後、現場実習での学校との連絡（報告・連絡・相談）や今後の現場実習への積極的な関わりについて確認がありました。



さらに、教師（指導者）として身につけてほしい力、成功体験の積み重ねが子どもの成長につながる等、前川指導主事の体験談をもとにした話が続きました。

塾生のみなさんは、現場実習や教育実習を振り

返りながら真剣に聞き入っていました。

## 【講話2】

小林課長からは、ご自身の自己紹介の後、「良い先生ってどんな先生だと思いますか？」という問いかけから講話が始まりました。塾生のみなさんからは「子どもに寄り添う先生」「叱る・褒める、メリハリのある先生」等、思い思いのめざす教師像が語られました。



その後、小林課長は、若い時の苦労が10年後、20年後の自分をつくっていく（若いうちの苦労は買ってでもしてほしい）ことを大前提に、自分の経験を振り返りながら、学級づくりや授業づくりの基本について、蒔田晋治さんの「教室はまちがうところだ」の詩を引用しながらお話されました。

最後に、

- ・授業で勝負できる教師になってほしい
- ・子どもと一緒に遊ぶ教師になってほしい
- ・子どもに好かれようとするのではなく、どんな子も好きになる教師であってほしい
- ・子どものことで泣ける教師であってほしい

と話され、講話を締めくくられたのですが、小林課長の塾生のみなさんへの思いは、さらに続きました。



子どもとうまくいかず、学級経営に悩み、学校に行くのもつらくなるほど苦しい思いをしたことを話される小林課長は、若い頃の苦い経験こそを語らずにはおられなかったのだと思います。それを乗り越えられたのは、笑顔を絶やさず子ども理解に

努めたこと、決して子どもを見捨てず、前向きに取り組もうとしたことで、卒業式での「先生に嫌な思いをさせてごめんなさい」という一言だったそうです。

こうした経験が教師を鍛え、教師力となります。そのことを語り継ぐことこそ、若い教師を育てることに繋がるのだと思いました。



これから教師を志す塾生のみなさんの心に深く留まったのではないでしょう  
うか。

この後は、いつものようにグループ協議に移り、現場実習や教育実習での悩  
みや思うようにならない学校現場の現実について、お互いの経験談が活発に交  
わされ、ふくまる教志塾での前期を振り返ることができました。

最後に、ふくまる教志塾での「前期の振り返り」を参加者全員が一言ずつ、  
自分の思いをまとめて発表してもらいました。ひとり 20 秒という短い時間  
ではありましたが、どの塾生も要旨をしっかりとらえ、的確で素晴らしい発表と  
なりました。



### <塾生の感想から>

○ 今日、「良い先生」ということを改めて考えることができました。私は、  
一つでも好きなものに出会うように一緒に生活していく、言葉だけでなく、  
自分の姿勢を通して伝えられる先生になりたいです。「良い先生」になれる  
ような子どもたちへの接し方、学級環境、その工夫などをたくさん聞くこと  
ができて、とても勉強になりました。また、塾生の方の思いを聞くことで、  
自分自身も考え、視野を広めることもできました。実習では、目的意識を持  
って、積極的に頑張っていきたいと思います。

- 特に今日のセミナーは、これから教師をめざす私にとって、とても興味深い内容でした。あの時、ああすればよかったのかとも思いました。教師の基本である授業をしっかりと行うことがまず第一だと思ったので、とにかく教材研究、児童のことをよく知ることをしっかりと心がけていきたいと思いました。現場実習はこれからが本格的になるので、今日学んだことを生かしていきたいです。
- 現場実習では、その日その日で「めあて」をかかげて取り組みたいと感じた。これまでも目標などは持って臨んでいたが、もっと具体的に膨らましていきたい。ふくまる教志塾も2年目の半期が過ぎ、自分の中で幅広い考え方ができるようになったと感じている。学生の今のうちに、現場実習では様々な先生の授業を見て体感し、学んでいきたいと思う。子どもたちに寄り添う教育とは口では簡単に言えるが、もっと具体的な形を自分の中で作っていきたく感じた。怒るのではなく、しっかりと叱れる教師について、自分の中でも考えていきたい。
- 「教育は今日行く」。“常に目の前で起こっていることに対応するのが教育だ”という言葉がとても深く心に残りました。楽をしようと思えば、いくらでも手を抜ける教師という仕事において、いかに生徒を思い、愛し、考えるより先に行動するかが大切だと感じました。小林課長のように、通勤途中にえずくようなストレスを受けながらも、それに耐えながら乗り越えてきたこと、卒業式にその生徒たちが感謝を伝えてくれたこと、数年経った今でも心が震えるような生徒との思い出。教師にとってそれが全てです。その瞬間があるからこそ、どんなに辛いことでも乗り越え、強い教師でいれると思いました。